



得意のドリブルで攻め込み得点につなげます

輝いています

高円宮杯全日本U-15サッカー選手権大会 準優勝

ひと

さかもと こうだい
坂本 航大 さん

Jリーグで活躍する選手に

U 15年代の日本一を決める、高円宮杯JFA第33回全日本U-15サッカー選手権大会。昨年末に開催され、約7200チームの中から準優勝に輝いた『FCラヴィーダ』のセンターバックとして、全試合にフル出場し、勝利に貢献したのが、坂本航大さん(15歳・錦町6丁目)です。兄の影響で5歳からわらび錦サッカーに所属し、小学6年生のときにスカウトされFCラヴィーダに入団。最初は周囲のレベルの高さに圧倒され、不安もありましたが、持ちまへの負けず嫌いな性格で「必ず成長して試合に出るぞ」と、闘志を燃やしました。足の速さを生かしたドリブルで

攻撃の起点を作るスタイルを武器にレギュラーを勝ち取ると、多くの試合経験を重ね、ボールや相手の動きを予測し、仲間へ伝える守備の司令塔としても成長していきました。今大会、全国の強豪相手に準決勝まで15得点2失点の快進撃を支えたのは坂本さんたちデイフェンス陣の活躍でした。準決勝の鹿島アントラーズづくば戦では、U-15日本代表にも選ばれている身長183センチの選手を徹底的にマーク。立ち上がりは硬さもありません。立ち上がりは硬さもありません。そして、自慢のスピードでパスをカットするなど、完璧に抑え込みました。優勝を目指し臨んだ決勝では、序盤の失点から流れを失い、前回王者に敗北。日本一まであと一步届きませんでした。「1対1の強さやセットプレーの高さなど足りないものを痛感しました」と唇をかむ坂本さん。この悔しさをばねに、高校選手権では頂点を目指します。「将来はJ1の舞台で活躍したい」。そのまなざしはまっすぐに、ピッチ上で躍動する未来を捉えています。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 巖にあり

—No.69—

今年の干支でもある虎は風のように速く駆けるといわれ、神獣の龍と並びたち、古くから描かれてきました。先人の模写はもちろん、さまざまな角度から動物を写生し、研究してきた暁斎は、実際の虎を見て写生をしたことが分かっていきます。本図は、暁斎が明治21年(1888)に伊豆の堀江友八氏の家で描いた作品です。鋭い眼光、ピンと反った尾、力強く踏み出す前脚など、威風堂々とした姿が写実的に描かれています。



本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

暁斎筆「竹虎之図」
明治21年 紙本墨画 軸装



詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

河鍋暁斎記念美術館 開催中(2月25日まで)

企画展「壬寅の吉年に 一新春吉祥画一」展
同時開催 特別展「暁斎が描いた能狂言版画展
—『狂言づくし』を中心に—

開館 = 午前10時~午後4時 ところ = 南町4-36-4
休館 = 火・木曜日、毎月26日~末日、年末年始
入館料 = 一般600円 高校生・大学生500円 小・中学生300円
65歳以上500円
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証のご提示を

詳細 = 同館 ☎441-9780



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勸業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
~明治22年(1889)